

カッコウ

Cuculus canorus

カッコウ科・夏鳥



カッコウ

名前の由来

「カッコウ」という大きな鳴声による。漢字名：郭公

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）35cm。尾は長く、くさび形。翼の先はとがる。頭部と体上面は青っぽい灰色。胸と腹は白く、細い黒帯が並ぶ。

声：繁殖期には「カッコウ、カッコウ」と大きな声で鳴く。少ししゃがれたような声で鳴くこともある。時々「カッカコー」と鳴いたり、「ゴーア、ゴーア」といった声も出したりする。「ポッ、ピピピピ」という声が地鳴き（さえざりではない普通の鳴き方）と言われている。

類似種と区別点：ツツドリ、ホトトギス。

ツツドリは下面の横斑が太くて粗い。

ホトトギスは小さく、胸の横斑が太くて少ない。

外見での区別は困難だが鳴き声には特徴があり、ツツドリは「ポポ、ポポ」、ホトトギスは「キョッキョッ、キョッキョキョキョ」と鳴く。

十勝にホトトギスはまず来ない。



カッコウ。さえざるときには背筋を伸ばすようにして尾羽を上げ下げする



類似種のツツドリ(円内も)

生息環境・分布

高原、明るい林、川原、低木が生えた草原、農耕地周辺に生息する。

分布：ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸東部で夏鳥として繁殖する。東南アジアやアフリカ大陸南部では冬鳥。日本には夏鳥として渡来し、北海道から九州までの各地で

繁殖する。

北海道（十勝にも）には夏鳥として5月中・下旬に渡来し繁殖する

十勝には、平野部の農地、河川敷など開けた環境に生息、繁殖する。

生活サイクル

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 十勝出現期 | | | | | 繁殖 | | | | | | | |
| 東南アジア(越冬期) | 繁殖 | | | | | | | | | 繁殖 | | |

食性・他生物との関わり

主食は昆虫で、樹上でガなどの幼虫を好んで食べる。北海道では、ノビタキ、コヨシキリ、アオジなどに托卵す

る。(→興味深い話の項参照)
捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～8月。オスは木の葉をくわえてメスに求愛するという。特定のつがい相手を持たない可能性もあるが詳しくは不明。

メスは卵を預ける他の鳥の巣から1個卵をくわえとり、その巣に自分の卵を1巣あたり1個産卵する(托卵という)。北海道ではノビタキ、コヨシキリ、アオジなどに托卵する抱卵は托卵された巣の親(仮親という)が行い、10～13日後に孵化、ヒナは20～23日で巣立つ。ヒナの世話も仮親が行う。(→興味深い話の項参照)



「仮親」となるコヨシキリ。全長13.5cmとカッコウの成鳥の半分にも満たない。育てているうちにカッコウのヒナに追い越される

興味深い話

■他の鳥の巣に卵を産みつける托卵を行う。メスは托卵相手の巣から卵を一つ取り出し、自分の卵を産む。北海道ではノビタキ、コヨシキリ、アオジなどに托卵する。卵は仮親の卵とよく似ている場合が多い。ヒナはいち早く孵化し、仮親の卵を巣から放り出す。

■カッコウ全ての托卵相手は日本全体で計28種に及ぶが、それぞれ1羽1羽は、自分の育て親と同じ種の鳥を托卵相手に選ぶという。

■托卵はいつも成功するわけではなく、托卵された鳥が気が付いて、カッコウの卵を放り出すこともある。托卵される側の鳥も、カッコウを覚え、カッコウが托卵しようとするのを撃退する行動をとるものもいる。全ての鳥に攻撃されるようになってしまったら、カッコウはどうするのだろう。

■長野県では数十年前までホオジロが主な托卵の相手だったが、ホオジロがそれに気がついたようで、巣を放棄したりカッコウの卵を捨てるものが増え、現在ではホオジロ専

門のカッコウが減ってしまったらしいという。

■一方で新たな托卵相手を見つけるという報告(1970年頃から長野県などでオナガを相手にし始めた)もある。この場合、卵の模様が似ている家系が生き残るのではないかとされているようだ。

■十勝に生息する托卵鳥は、他にツツドリとジュウイチがいる。北海道全体になるとホトトギス加わる(すべてカッコウ科)。

■カッコウが鳴く頃になると霜の心配が少なく、農家の人が種をまく目安とした、ということから「種まき鳥」と呼ばれることがある。

■「かんこどり」ともいい、かんこを「閑古」とあてて、商売などがはやらないときに「閑古鳥が鳴く」という。

■十勝地方のアイヌ語では「カッコク」「カッコクカムイ」などという。「カッコク」は「カッコウ」と同じく鳴き声に由来する。

配慮事項

林と草原が入り混じったところが大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978
「広辞苑 第三版」新村出 編、岩波書店 1983
「カッコウの生態」I. Wyllie著、安部直哉 訳、どうぶつ社 1981
「復刻版 野の鳥の生態 1～5巻」仁部富之助、大修館書店 1979
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004
「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」

Nakamura, H. (1990) Brood parasitism by the Cuckoo *Cuculus canorus* in Japan and the start of new parasitism on the Azure-winged Magpie *Cyanopica cyana*. Jap. J. Ornithol., 39 : 1-18.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原樹林)
鳥類